

市内循環バス
「ていーろーど」に関する提案書

平成19年9月28日

市民の足勉強会

<http://access.irumacity.com/>

平成19年9月28日

入間市長
木下博様

市民の足勉強会会員一同
事務局 いるま塾の会 代表 岩崎 廣司
住所
電話

市内循環バス「ていーろーど」に関する提案書

平素より市民活動に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たち「市民の足勉強会」は、生涯学習フェスティバルのまちづくり部会から巣立った有志を中心とした団体で、足掛け3年に亘り市民の足について学習をしてきました。

市民の足には、鉄道、バス、タクシー等がありますが、一市民団体として調査可能であり、また市民に最も身近であるべきもの、という観点から市内循環バス「ていーろーど」に焦点を当て、「バス運行現況を知ること」、「バスに乗り現状を体験すること」、「他都市の状況を調べること」の3点に着目し、会員が分担し合って、「個人の足」で調査検討を行ない、月1回の割合で勉強会を行なってきました。

その結果、「ていーろーど」は運行開始後、利用者数は年々微増しているもののその実態は高齢者パス券利用客が増加した結果であること、そのため運賃収入は毎年減少していること、市民側には利便性の向上を求める意見があり、循環バス運行の目的と市民側の需要に乖離現象が生じてきていること等が明らかになりました。

また、他都市では、バス運行目的を見直す事によって、利用者数が倍増するといった成功事例もありました。

以上は、当会で調査・勉強した内容の一端ですが、改善案を検討するには至らず、一市民団体での限界をも痛感しております。

そこで、今後は市民と行政が協働し、市民の足として愛され、より一層利用される「ていーろーど」にしていきたいと考え、下記の通り提案いたします。

記

利用者向上策などを策定するため、多数の市民ボランティア委員参加による「(仮称)入間市内循環バス改善協議会」の設置を提案します。

以上

[はじめに]

入間市内循環バス「ていーろーど」は平成9年にスタートして11年目を迎えました。その間、利用者数はわずかずつ増えているものの運賃を支払って乗る人の数は減り続け、運賃収入は当初の486万円から330万円になってしまっています。(市の補助金は毎年約4,000万円)10年間もの間大きな見直しがなされなかったためだと考えられます。

私たちは生涯学習フェスティバルなどを通じて市民同志で「市民の足」について考え、勉強を続けてきました。その結果、「ていーろーど」の運行目的を含めた見直しが必要と考え、ここに提言するものであります。

[これまでの経緯]

1. 第11回いるま生涯学習フェスティバル・まちづくり部会

平成17年11月27日に開催された「第11回いるま生涯学習フェスティバル」で、新しいまちづくりを目指して市民と行政が何をなすべきかを検討する場を作るため、一般市民を対象に下記のようなアンケート調査を実施しました。

☆ アンケート内容

各位

2005/10/18

第11回いるま生涯学習フェスティバルまちづくり部会よりお願い

[前書き、趣旨略]

・お名前

・あなたの地域での活動歴を教えてください。

例：自治会役員〇年、小学校PTA役員〇年、〇〇の会〇年

・質問1. 行政サービスでいらぬ(無駄・変更)と思うもの3つ

・質問2. 行政サービスでほしいもの3つ

なお、あたらしいまちづくりの提案、他市町村のまちづくり政策で、参考になると思われる事例をご存知でしたら教えてください。

その結果をふまえて、「第11回いるま生涯学習フェスティバル」で市民フォーラムを行いました。「補助金・報酬金に関する事項」や「施策の見直しに関する事項」に意見が多かったが、具体的に「市内循環バスの運行」についても意見がいくつかありました。結果は別紙(1)にまとめられています。

2. 第8回入間市市民意識調査

上記まちづくり部会のアンケート調査とほぼ同一時期に入間市企画部で「第8回入間市市民意識調査」が行われ、翌平成18年3月に結果が公表されていますが、その中に、調査項目(5)「ていーろーど」について、があり興味深い結果が得られていました。

- ① 市内循環バス「ていーろーど」をこの1年間に利用したことがある人は、ほぼ1割にすぎない。
- ② 利用したことがない理由は、ほぼ半数の人が「他の交通手段を利用しているから」というものである。

結果を詳細にみると、移動に公共交通手段を必要としているが、「ていーろーど」に利便性が不足しているので「ていーろーど」以外の交通手段が利用されているということを示していました。

第8回入間市市民意識調査 入間市企画部広報公聴課

調査期間：平成17年10月17日～11月4日 2900人を無作為抽出 回答1724人

上記調査によると、この1年間、市内循環バス「ていーろーど」を利用したことがない人が9割近くを占めている。運行開始後10年経過し、それなりに認知が進んだはず（「ていーろーど」を知らない人は9.0%）なのにこの結果は低いと考えざるを得ない。空車で走っていることもある。

利用したことがない理由としては、「他の交通手段を利用しているから」が49.5%で特に多く、次いで、「近くに停留所がないから」、「本数が少ないから」が各約10%になっている。これは現在の「ていーろーど」が市民にとって適切な交通手段になっていないということを示している。高齢化社会がますます進み、自家用車の運転が難しい世代や他の交通弱者にとってバスなどの必要性は高まっていくことから考えると、「ていーろーど」の運行目的やその運用に改善が必要であることを感じる。

上記調査の中でも、優先的に取り組むべき施策として「防犯対策」に次いで「バス路線の整備・充実」が挙げられている。

3. まちづくりすと勉強会

上記結果をもとに、その後も有志で討論し、主に「市内循環バスの運用見直し」を提言することを視野に「まちづくりすと勉強会」として活動が続けることにしました。第12回生涯学習フェスティバルに参加することになり、市民活動センターで毎月1回勉強会を開催しました。

主な活動内容は次のとおりです。

- ① 会員それぞれが「ていーろーど」に乗ってみるなど、現状を把握し分析しました。
乗車記報告例：別紙
- ② 他市の市内循環バスの状況を調査しました。
上尾市内循環バス「ぐるっとくん」
東村山市コミュニティバス「グリーンバス」
武蔵野市コミュニティバス「ムーバス」
富士見市内循環バス「ふれあい号」
- ③ 文献・ホームページで見る循環バスの活性化策を調査し、会員で討論しました。

また、市役所市民生活課の交通担当と意見交換を行いました。

④ 「市民の足を考えよう」という題で下記アンケートを実施しました。

| | |
|--------------------------------------|----------|
| 各位 | 2006年11月 |
| 第12回いるま生涯学習フェスティバルまちづくり部会 | |
| みんなで考えよう こんなものいらない？ あったらいいな！ 私ならこうする | |
| ～市民の足を考えよう～ | |
| ・質問1.「こんな市民の足・・・があつたらいいな！」と思うもの | |
| ・質問2.「私ならこうする・・・こんな足にしたい！」と思うもの | |

⑤ 平成18年12月3日の「第12回いるま生涯学習フェスティバル」において、上記アンケート調査結果を発表するとともにワークショップを実施しました。

4. 市民の足勉強会

2006年の第12回生涯学習フェスティバルでは、必要な公共交通機関とは何か？を「ていーろーど」を中心に話し合い、更に調査を進めると共に、2009年に予定されている「ていーろーど」バスの車体更新に向けて、市民から提案を持ち上げようと「市民の足 勉強会」を立ち上げました。

平成19年4月3日、事務局を岩崎廣司氏とし、会則を作って「コミュニティーバス」を中心に勉強を継続。原則として月1回会合を開き、現在に至っています。

・「ていーろーど」の検討内容

検討内容としては、知ること、乗ること、調べることの3点に着目し、メンバーがその役割を分担し合い、月1回の割合で勉強会を開催してきました。

① 知ること

「ていーろーど」の運行目的、運行系統、運行台数、便数、停留所、利用者数など公開資料をもとに把握した。また、市の財政決算書やバスの利用状況調査書などバス事業全体の状況を勉強した。

② 乗ること

バスの利便性や乗降人員及び利用者の状況を知るには、乗ってみなければわからないということから、メンバーが実際に乗車して、利用状況を調査した。

③ 調べること

他市における運行状況を、実際に上尾市、武蔵野市、狭山市、富士見市などを訪問して、循環バス担当者にこれまでの経緯、現状、近い将来の見通しをお聞きし、資料をいただくなどして調査した。

市民の足フォーラムの開催

上記の全体をまとめた上で、平成 19 年 6 月 26 日に市民活動センターで次のテーマで市民フォーラムを開催しました。

「みんなで考えよう！ あなたが変える市民の足」

その結果、出席者の総意として「市内循環バスは、ある特定の立場の人たちやある特定の地域の人たちが利用するのではなく、万遍なく全ての市民が利用することが望ましい。フォーラムを含めたこれまでの調査検討結果は有意義であるから、意見書にまとめて提言しよう」ということになりました。

[調査結果のまとめ]

1. 第 8 回入間市市民意識調査の結果によっても、第 11 回いるま生涯学習フェスティバルのアンケート結果によっても、市内循環バス「ていーろーど」に関心はあるが、利用している人は少ないという結果であった。
2. 有志で手分けして「ていーろーど」に乗車してみた結果として、少ない人数しか乗っていないことが多いが、コースや時間によっては座席が一杯になるようなときもある。つまりある特定の利用のされ方が多いということがわかった。
3. 約 9 割の乗客が「特別乗車証」を使った無料乗車の方であった。
4. コースにも一部に「西武バス」と重なった区域があり、市民の意見がある。
5. 市内の目的地までの所要時間に約 1 時間を要するコースがあり、急ぐ場合に乗れないとの声がある。
6. 「ていーろーど」の運行に入間市は毎年約 4,000 万円を補助しているが、武蔵野市の「ムーバス」のように採算が取れている市内循環バスもある。このバスは、吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅を起終点として通勤通学、通院にも使えるように 7 時から 20 時台までおよそ 15 分間隔で運行し、しかも休日の方が便数が多いこと、所要時間が短いこと、料金は未就学児を除いて全て一律 100 円という特長があることなどによるものと思われる。
7. 同じく成功例として挙げられている上尾市の場合も、障害者を含め、一律 100 円となっている。

[意見]

認知度の向上に伴い「ていーろーど」の乗客は少しずつ増加しているのだろうが、無料パスの利用者が 9 割ではまるで福祉バスのようにもなっているといても過言でない。知っているが不便なので乗らないという一般の人々、車があるから乗らないというマイカーの人々が多い。今は車を運転している人々もいずれは運転できなくなる。「ていーろーど」に乗りやすくし、乗客数を増やすための施策はますます重要になっている。

富士見市内循環バス「ふれあい号」はそのための好事例となっていると考える。

ふれあい号の最近 5 年間の乗客者数は以下のようになっている。

| 年度 | 運転日数 | 一般乗車人数 | 無料パス人数 |
|--------|------|---------|---------|
| 平成14年度 | 359日 | 33,791人 | 24,026人 |
| 平成15年度 | 360日 | 39,094人 | 26,887人 |
| 平成16年度 | 359日 | 68,552人 | 37,912人 |
| 平成17年度 | 359日 | 74,204人 | 46,217人 |
| 平成18年度 | 359日 | 78,035人 | 56,130人 |

この要因は平成16年1月19日に運行目的の手直しが行われたことによることである。平成9年1月10日に7系統2台で運行が開始されたがそのときの運行目的は、①公共施設の利用の促進、②交通不便地域の解消、③交通弱者対策、であったが、平成16年1月に、④駅利用者の足の確保、が追加された。その目的のために、①公共施設を通りながらも、3つの駅と市役所を短時間で結ぶことを柱にした、②そのために従来あった路線バスとの重複部分をやめた、③従来の7系統を8系統に増やした、④1系統10～15分とし、その分便数を増やした（ただしバスの台数は2台のまま）ということである。運行目的を1つ追加しただけで乗客数は5.8万人から13.4万人と倍以上に増え、しかも一般乗客数のほうが多いというのである。

上記入間市の調査によると、生活環境と望まれる施策の「優先的に取り組むべき施策」は防犯対策に続いて第2位に「バス路線の整備・充実」が挙げられています。公共施設、事業は、利便性の向上を目指して常に改善を続けることが必要であることは論を待ちませんが、調査結果は「ていーろーど」の利便性向上に大きな関心をもたれていることを示しています。

また、第5次入間市総合振興計画には、「今後は高齢者人口の増加が予想されることから、利用者の要望を取り入れながら、より利用しやすい運行形態への改善による利用者の増加を確保することが必要です。」と明確な方向性を示しております。

「ていーろーど」は現在、「公共施設等への交通手段を確保し、公共施設などを利用しやすくすることを目的とする、なお交通弱者に配慮する」として運行されています。この目的だけでは利用者の大きな増加が見込めず、しかも無料パス乗車の人が増えるだけで、料金収入を増やすことは難しいと思います。富士見市の好事例を参考に、運行目的を追加して一般乗車人数を増加させるよい時期だと思います。

追加する運行目的としては「駅利用者の足の確保」が最適であると考えます。現在は路線バスがこの目的で運行されていますが、「交通不便地域の解消」を主眼に路線バスと協議して競合したり重複したりすることがないように、路線を見直すことも必要になります。

運行目的が増えれば、それにより路線の見直し、便数、朝晩の本数の見直しも変更することになります。

次に、「乗って便利を得る人は、どんな人でも最低限の受益者負担は必要である。」ということでもあります。たとえば1路線の距離を短くして一律100円とするなどです。駅への便を考えたら、しかも会社員の利用も考えたら短時間で目的の場所に着くことが必要になります。現在のように、「急ぐから「ていーろーど」に乗らない」というのではまずいのです。現在無料パスを利用している人からはクレームがくるでしょうが、今の時代100円払う価値のない程度なら、それは「ていーろーど」に対して需要があるとは言わないのではないのでしょうか。粘り強く説得して理解を得ることが必要だと思います。

誰でもいつかは車の運転が出来なくなります。どんな地域の人も万遍なく利用できるようになるよう運行目的を追加し、運行を改善することの必要であると思います。

ぜひそのための協議会を作って市民参加で市民の意見を多く反映させた「ていーろーど」にしてほしいと思います。そのときのキーワードは「子どもからお年寄まで多くの市民が育て利用する」コミュニティバスとなるでしょう。

[おわりに]

入間市生涯学習フェスティバルでの取り上げから、足掛け3年、調査しながら勉強してきた結果を提案書としてまとめました。これからのあたらしい「まちづくり」の協働の一例として行政と協力して「ていーろーど」をさらに発展させていきたいと考えています。ご検討のよろしく願いいたします。

以上

「添付資料」 1. 市民の足に関する調査報告書

2. 富士見市内循環バス「ふれあい号」の調査

「市民の足勉強会」事務局 岩崎 廣司

会 員 磯田 英徳

〃 幸森 康夫

〃 斎藤 次雄

〃 川俣 義明

〃 平井 立麻

〃 人見 友章

〃 河原井 修一

〃 室山 茂子

〃 坂本 悦子

〃 横峰 貴子

〃 岡野 亘

〃 大坪 功